

2021年度事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. 就労継続支援サービス（A型）事業

2021年度は、雇用契約者22名、非雇用契約者16名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。2021年度末の雇用契約者は、22名。

2021年度は、コロナの影響によって就労収入が減少した。その為に、就労メンバー全員の支払い総額は8%程度、減少した。

国際線の航空運賃登録業務が4社中3社、収入がゼロになったことが大きく影響した。来年度も回復が見込めない為、他の業種の業務を増やしていけるよう行動していく。

就労メンバーへの支払い総額（5年間の推移）

2021年度：28,925千円

2020年度：31,303千円

2019年度：32,925千円

2018年度：32,880千円

2017年度：31,668千円

就労メンバーの一人平均月額賃金（5年間の推移）

2021年度：（雇用契約者）96,296円 （非雇用契約者）23,676円

2020年度：（雇用契約者）92,396円 （非雇用契約者）35,437円

2019年度：（雇用契約者）93,230円 （非雇用契約者）42,358円

2018年度：（雇用契約者）87,453円 （非雇用契約者）44,563円

2017年度：（雇用契約者）85,273円 （非雇用契約者）51,705円

【就労メンバーが従事する主な業務内容】

- ① 動画サイト監視業務
- ② イベント情報データベース入力業務
- ③ Webアクセシビリティ検査業務
- ④ アンケートデータ入力業務
- ⑤ デザイン関連業務
- ⑥ パソコン講習講師 など

2. 就労移行支援・定着支援サービス事業

2021年度は、就労移行支援サービス利用者総数17名。就職者数5名、翌年度の利用継続9名。

コロナウィルスの影響により就職が決まるまでに時間を要している。企業の採用状況の回復が待たれる。

また、例年、4月から利用開始する人が一定程度いるのだが、2022年4月は1名となっており、利用希望者の動向に変化が生まれている。

2018年度から始まった就労定着支援サービス事業は、2021年度は、14名が利用した。就労期間が長くなるにつれて、定着支援を利用する頻度が少なくなってきた。引き続き、高い定着率を維持している。

3. パソコン講習事業

(1) パソコン講習

コロナウィルスの影響により自主事業のパソコン講習会の開催回数が減少した。ニーズも多様化しており、個別講習への移行など検討課題が浮き彫りになってきている。

(2) 放課後等デイサービス事業

2021年10月から小学5年生以上の小学生クラスを開設したが、情報の周知に時間がかかっており、2021年度末で小学生の利用は1名のみであった。

利用者の全体傾向としては、コロナの影響が徐々に少なくなって利用回数に回復傾向が見られる。

引き続き、子どもたちの学びたいことに寄り添い、子どもたちが自信を身に付けられるよう努力していく。

(3) 札幌市障がい者ICTサポートセンター事業（札幌市受託事業）

① パソコン講習会

2020年度と同様に、札幌チャレンジドのパソコン講習会場を会場とし、感染予防の観点からマンツーマン方式で開催した。

② パソコンボランティア派遣

2021年度も、コロナウィルスの影響により原則、派遣は休止した。但し、一部、視覚障がい者を対象に札幌チャレンジドの事務所で対応した。ボランティア養成講座は、感染予防対策行い、実施した。

③ 相談業務

電話、メール、来所・FAX等で相談対応を行っている。ITが普及した現代ではあるが、様々な相談が寄せられている。

4. 中期経営計画 2024

2022年度から2024年度の3年間の中期経営計画2024を策定した。

計画書はホームページで公表しているので、概要は以下の通り。

<視点1> 社会のニーズを見極める

コロナ禍により社会のニーズが変化している。それらの変化を敏感に捉え、適応していく必要がある。

- ▶ テレワークニーズの拡大
- ▶ 就職支援ニーズの変化
- ▶ パソコン系放課後デいの増加
- ▶ 子どもたちへのキャリアデザインニーズの拡大

<視点2> ニーズ視点から連携を深める

札幌チャレンジドの各事業単体へのニーズから よりつながった支援、サービスが求められている。

- ▶ 就労・就職につながる長期的な訓練
- ▶ 働ける時間の長さや場所への対応
- ▶ 高校卒業後の進路としての札幌チャレンジド
- ▶ 高等支援学校、教育委員会との協働

<視点3> 独自性を磨く

NPOとして、札幌チャレンジドしかやっていないこと、札幌チャレンジドならではの活動を行うことが札幌チャレンジドの大きな存在意義である。

- ▶ オンリーワンとして道内全域のテレワーク機会の拡大
- ▶ 定着率が極めて高い就職訓練の維持・向上
- ▶ キャリアデザインを意識した放課後デイカリキュラムの確立
- ▶ 全障テレネット、教育機関、企業、様々な外部機関 との具体的な連携の拡大(全国的な活動も視野に)

《中期経営計画 2024 重点 ACTION プラン》

1. 世の中にまだ無い新たなタイプの就労継続支援事業所の開設（カレッジ型就労継続支援） → 2023年4月目標
2. 高等支援学校からの実習生の受け入れ拡大（移行・就労）
3. 視覚障がい者支援（PC講習・就職支援）の継続・充実
4. 放課後デいのコース設定（興味探求コース・キャリアデザインコース） → 2022年度中
5. A型事業における新規分野開拓（アノテーション、メタバース等）

6. 福祉を学ぶ大学生の現場実習機会の拡大（移行・放課後デイ）
7. 高等支援学校のインターンシップ・訪問講習の継続実施（就労・講習）
8. 放課後デイの療育的側面の充実に向けた研修・支援機関との連携強化
9. 視覚障がい者の就職支援の為の新たな枠組みの設立
10. 広報 ACTION プランの実行

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上